

小学3年生から60代の方が出演されるとのことで、
どんな作品を上演されるのか、とても楽しみに拝見した。
劇中には歌やダンスもあり、俳優のみなさんは熱演で、健闘されていたと思う。

しかし演出上の「黒子」の存在と、場面転換の「幕」の使い方を、
もう少し工夫された方がよいのではないかと感じた。
観客に与える印象をよく考慮したうえで、黒子を効果的に使うならば問題ないと思う。
しかし最初の、台を運んでくる場面にしか黒子が必要ないのであれば、
演出上、工夫をして黒子を使わずに処理する方法を考えるべきではないだろうか。

また、場面転換に黒幕を多用している印象を受けた。
幕を使用すると、まず物理的に場面転換に時間がかかる。
場面転換に時間がかかると、せっかくそれまでの場面で築き上げたオズの世界の空気が、
そこで断ち切られてしまう。
観客の中でも、そこまで追ってきた流れが一旦、断ち切られてしまうので、
演じる側も見る側も、またゼロから、世界を立て直す羽目になってしまうのである。
メディアが発達した現在、観客は「本当は無いはずの存在」に、非常に敏感である。
場面転換こそ、演出の腕の見せ所だと思って、今後は幕の使用を減らし、
工夫されてみてはどうだろうか。

会話の場面では、会話の「キャッチボール」が成立していないように感じられる
箇所が見られた。

会話の場面で重要なのは、話者だけではなく、聞き手の反応である。
話者がいくらうまくセリフを発しても、聞き手の反応や感情の流れが見えなければ、
観客は何も受け取ることができない。

聞き手の反応があまり感じられない場面があったので、さらに会話シーンの研究をされる
と、
より作品に説得力と深みが生まれると思う。

また一部であるが、子供の俳優さんの声量と姿勢が気になる場面がみられた。
大人と子供が同じ舞台に立つと、どうしても子供の声量やエネルギーが、大人より劣って、
目立ってしまうのは、仕方がないのかもしれない。

しかし、せっかく様々な世代の方々が共同作業をされているのだから、
大人の俳優さんが、子供たちと一緒に姿勢や声量について考える機会を設けられてもよい
のではないだろうか。

皆がストーリーを知っている演目を上演する場合、作品自体のエネルギーがとても重要だ
と思う。

今後より一層、大人と子供の一体感を高め、力強い作品を作り続けていただきたいと感じ
た。